女性のための健康ファイル

ファイル㉙ 子宮頸がん

子宮頸がんは、子宮の入り口の子宮頸部とよばれる部分から発生し、HPV（ヒトパピローマウイルス）というウイルス感染によって起こります。HPVには約100種類ほどの種類があり、それぞれに番号で識別されています。子宮頸がんの原因となり得るHPVは「ハイリスクHPV」とも言われ、約10種類ほど知られており、16型と18型で約70%を占めています。ハイリスクHPVの持続的な感染が続くと、一部に異形成と呼ばれる前がん病変や子宮頸がんが発生します。

子宮頸がん検査は「細胞診」という方法でスクリーニング検査が行われます。子宮頸部の細胞を採取し、顕微鏡で異常な形の細胞がないかどうかのスクリーニング検査を行います。細胞の変化はベセスダシステムという分類によってカテゴリー分類され報告されます。異常所見が見つかると、HPV検査、コルポスコピー検査、組織診などの精密検査が必要となります。

子宮頸がんは早期に発見すれば妊孕性（妊娠する機能を保つこと）が温存され、完治するがんです。一方で発症年齢が20歳代から40歳代と若く、人生の中で仕事や家庭で一番充実した年代に当たり、発見が遅れた場合の影響はご本人ご家族を含め大きいものと思われます。若い年齢層の方々の積極的な子宮がん検診の受診が望まれます。

みらいウィメンズクリニック　院長　茆原弘光